

3D建築積算とBIM 支援システム直接連携

日積サーベイ IFC不要、効率向上

日積サーベイ(大阪市中
央区、生島宣幸社長)は、

BIM対応型の3D建築積算システム「HEΛIOS(ヘリオス)」を機能強化した。福井コンピュータキテクト(福井県坂井市、佐藤浩一社長)が販売するBIM支援システムの「GLOBE Architect(グローブ・アーキテクト)」と直接連携。国際標準のファイル形式(IFC)を介さず、必要な情報を絞り込んで積算する。既に販売を開始している。機能強化したシステムの名称は「ヘリオス2021」。グローブとダイレクトに連携し、IFCではできなかった建具のガラスや階段といった幅広い積算を可能にする。IFCが不要になるため、従来よりも変換回数が大幅に減るなど業務効率の向上につながる。販売価格(税抜き)は構造積算セットが110万円(仕上げ積算セットは75万

円)から。日積サーベイの子会社、バル・システム(大阪市中心区、生島社長)が販売を行っている。

これまでヘリオスとグローブを連携して積算を行う

には、国際標準の中間ファイルであるIFCを介していた。IFCは情報量が膨らみやすく、物件の種類に応じて変換に時間を要するなどデメリットもあった。